16. 胆道シンチグラフィによる胆嚢炎評価における delayed image の有用性

油野 民雄 谷口 充 久田 欣一
(金沢大・核)
松平 正道 (同・RI部)
宮崎 吉春 藤岡 正彦 宮永 盛郎
(能登総合病院・核)

急性右上腹部痛を呈し急性胆嚢炎が疑われた症例のうち，最終的に手術にて確定診断された13例を対象として，急性胆嚢炎における胆道シンチグラフィの有用性を検討した．胆道シンチグラフィ所見上では，胆嚢描出の有無，および炎症が周囲の肝臓に波及した場合に見られる hot rim sign に注目した．従来からの報告のごとく胆嚢描出の有無は，静注60分の時点での評価では不十分であり，60分以後の delayed image が必要であったが，その際 intensity 強調画像での評価が有用であった．hot rim sign も，intensity を強調した delayed image での評価が必要であった．

17. 肝動脈血流比 functional image 作成による肝疾患評価

井上 寿 塩崎 潤 宮崎 吉春
藤岡 正彦 宮永 盛郎 (能登総合病院・核)
油野 民雄 谷口 充 (金沢大・核)

Tc-Sn colloid 肝 scan angio data よりフレミング法を用い，動脈成分と血流成分に分離し image 化した．動脈成分 image は肝の動脈化判定に有効であった．また前立腺癌の対象は全例動脈化を呈した．血流成分 image は肝血流量を示唆し，肝疾患では高頻度に血流低下をみた．特に肝硬変では全例著しい低下を示した．また，同 image での脾臓の出現傾向は，脾臓の血流量を反映し肝 scan の脾臓放射能所見との関連を示した．さらに両 image の除をもって肝動脈血流比 image とし評価した結果，色合いや濃度の均一性から異常判定ができ有効であった．また特定疾患には特有の pattern を呈した．しかし肝区域的評価までは望めなかった．

18. 門脈腫瘍塞栓による肝シンチ，CT 上の変化

曽根 康博 今枝 孟義 山脇 義晴
浅田 修市 鈴木 雅雄 広田 敬一
後藤 裕夫 関 松蔵 土井 偉誉
(岐阜大・放)

門脈腫瘍塞栓が右枝末梢側より肝門部側へ進展する過程を観察し得た肝細胞癌7例を対象として，肝シンチ，CT にて左葉外側区域脾の増大の有無を検討した．門脈腫瘍塞栓の評価は，上腸間膜動脈経由の門脈造影，CT によって行った．7例中4例に左葉外側区域の増大を認めた．また6例に脾の増大を認めた．左葉外側区域増大群と非増大群を比較すると，後者において側副血行路とくに食道静脈瘤の発達が高率であった．Child 分類では増大群が若干良い傾向を示した．右枝の広汎な腫瘍塞栓による左葉への門脈血流の増加が左葉外側区域の増大を起こす1つの要因であると思われた．また側副血行路の発達と左葉外側区域の増大は互いに相反傾向があった．

19. 心プールシンチグラフィーにおける左室容積算出について(第一報)：Area-Length 法と Cardiac Output 法の比較

谷口 充 中嶋 憲一 加藤 浩司
村守 朗 四位例 靖 南部 一郎
分校 久志 利波 紀久 久田 欣一
(金沢大・核)
山田 正人 松平 正道 (同・RI部)

心プールシンチグラフィーに Area-Length 法を応用し左室拡張末期容積 (EDV) の算出を試みた．心プールシンチはピロリン酸を用いた ^{99m}Tc-RBC 30 mCi にて行い，m-LAO 35° よりスライドホールコリメータを用い撮像した．Area-Length 法により求めた EDV と心放射図より求めた EDV (Cardiac output/Heart rate/Ejection fraction) との相関は $r=0.74$ ($n=32$) と有意であった．また左室造影よりの EDV との相関は Area-Length 法で $r=0.58$ ($n=12$)，心放射図で $r=0.79$ ($n=12$) と後者が良好であった．また前者は後者に比し低値をとる傾向があった．

Presented by Medical*Online